株式会社ダイビ

高性能な糸かがり機の導入で 大学向け卒業アルバム事業を拡大







スマートフォンケースも手がける

卒業アルバムの製作に 長い歴史と実績

大正7年に山口県下関市で印刷業として創業した。 平成30年に創業100年を迎える。昭和28年に 大阪市へ移り、卒業アルバムなど学校向けアルバムの 製作を始めた。長い歴史と実績、高品質なものづくり から、大学生協や学校からの信頼も厚い。

デジタルカメラやソーシャル・ネットワーキング・サー ビスの普及をはじめ、技術の進歩によって写真の閲覧 手法は変わっていくが、ハードに依存しない紙媒体 のアルバムは将来の技術が変わっても閲覧できる安心 感がある。顧客のニーズに合った企画提案、写真レイ アウトなどのデザインカ、経験豊富なDTPオペレー ターによる編集や組み版、高品質な印刷と製本まで、 アルバム製作を一貫して行う。

アルバム事業のほかに、印刷技術とデザイン力を 生かしてスマートフォンケースの販売も始めた。鉄道 ファン向けにJRなどの人気車両のデザインを詳細に 再現。前田哲治社長は「人々の思い出に残るものや、 好きなものに関する事業に取り組んでいる」と話す。



製本工程に糸かがり機を 導入し生産性向上

将来、少子高齢化による学生数の減少は避けられない。 大学アルバムは希望者のみが購入するため、多品種少量 生産体制が求められるほか、受注と納入時期が重なり 短納期対応も必要。アルバム製作は固定費が高く、販売 数の減少は値上げにつながるものの、低価格の競合 企業も増えている。これらの課題があり現状維持では 成長が見込めないと、中小企業庁の「ものづくり補助金」 を活用して高性能な製本機を導入し生産性向上を図った。

製本は印刷した紙をアルバムに作り上げる最終段階 で、製品の品質を左右する重要な工程。平成27年2月 に、自動で糸で製本できる約3,000万円のイタリアの メカノテクニカ製の糸かがり機を導入した。

卒業アルバムの売り上げうち大学向けは約30%を 占め、北海道から沖縄まで全国の名門大学のアルバム を手がける。大学は人数が多いため分厚くなり、製本 では接合部の高強度化が必要で、糸かがり機を活用 して大学向けアルバムの拡大を狙う。ブライダル向け アルバムなど新市場の開拓にも活用する。

高強度、多品種少量、 短納期に貢献

導入した高性能な糸かがり機によって、高強度、 多品種少量対応、短納期など卒業アルバム製造に 伴う課題の解決を図った。

製本スピードは旧設備の6倍と高速化し、納期が 従来の7日から5日へと2日短縮できた。縫い間隔は 19mmと、他社製の16.5mmに比べて広い。かがり 針の直径も小さいので、紙に与えるダメージを軽減 しつつ強く締められる。ページ接合部の強度は旧設備 に比べて40%向上した。

糸に熱をかけないので糸本来の強度も維持できる。 針は市販品も使用でき、備品のコスト削減につながる。 給紙部分のシーケンス制御によって、給紙部分で 不良を検出し修正できるため無駄を出さない仕組み。 生産プログラムの保存数は無制限で、折り丁の保存 数も230件と多いため、卒業アルバムの多品種・ 少量生産への対応が可能になった。

設備もコンパクトなため印刷面の擦れが少なく、 アルバムの品質向上につながる。コンプレッサーの 空気量を他社製の半分に抑えた省エネルギータイプ で、電気代削減による利益向上も期待できる。かがり 部分などの駆動部に透明カバーが取り付けられて おり、旧設備より作業安全性も向上した。



大学向け卒業アルバムの 拡大や新分野の開拓に活用

高性能な糸かがり機の導入によって、のりでつける 冊子ではできなかった厚みのある重いアルバムにも 迅速に対応できるようになり、事業の幅が広がる。 糸かがり機の主な活用対象は大学向けアルバムの 受注拡大だが、卒業アルバムは少子化に伴い、将来の 縮小傾向は避けられない。

そこで、事業拡大のために結婚市場など新分野の 開拓にも糸かがり機を活用する。ブライダルアルバム は写真の枚数が多く、紙も厚いため糸かがりに よる製本が向いているという。平成28年4月に 新事業推進課を発足し、新たな事業分野の開拓を 進める。前田社長は「事業拡大や品質で勝負する ために必要な設備が整った。糸かがり機を武器に していく」と期待を込める。営業を担当する社員も 増員した。

創業100周年に向けて「チェンジ&チャレンジ」 というテーマを掲げ、仕入れ・生産・販売などを 一気通貫する効率化や、新規分野の開拓による売り 上げ構築を目指す。現在の売上高は約13億円。 平成33年度までの5年間で、糸かがり機導入に よる効果で6億円の売り上げ増を狙う。そのほかの 事業も含め、平成33年度に売上高20億円を目指す。



大切な思い出がつまった卒業アルバムを 高い技術で高品質に作ります

代表取締役社長 前田 哲治

価格競争ではなくオンリーワンの 技術で勝負したいと考えています。 卒業アルバムは年数がたてばたつ ほど価値は高まり、輝きを持ちます。 そのために高品質な卒業アルバムを 届けていきます。



http://www.daibi.co.jp/

取材を終えて

紙の良さと技術を生かした 新事業展開を

卒業アルバムは学生時代の大切な思い出がつまった、かげがえのないもの。 何十年と美しく保存するために、高品質なアルバム作りを続けている。

技術の進歩にともない、写真の閲覧手段は時代とともに変化していくだろう。 しかし印刷された紙のアルバムならば、技術の流行に左右されずに、何年後 でも手にとればすぐに眺められるメリットがある。デジタル化の時代だからこそ 紙の良さを生かし、技術と実績を元にさまざまな事業展開が見込めそうだ。

148 平成25年度ものづくり補助金成果事例集 平成25年度ものづくり補助金成果事例集 149